

組織運営に内省と対話を

釧路公大・地域経済セミナー

香川大学大学院 八木教授が講演



組織経営で必要な内省と対話について講演した八木教授

釧路公立大学地域経済研究センターと地域分析研究委員会は20日、同大学で地域経済セミナーを開き、香川大学大学院の八木陽一郎教授が「内省と対話が織りなす組織運営―企業と地域

の発展の原動力」と題して講演した。

同セミナーは、公立大教員らで組織する同研究委員会(宮下弘美委員長)が年に5、6回開催しており、今回は同センターの佐野修

久センター長が八木教授に呼び掛け実現した。八木教授は1971年東京都生まれ。94年学習院大卒、2008年慶應大大学院修了。経営学博士。組織行動学を専門とし、組織変革などについて「内省と対話」をキーワードに研究活動を行っている。

この日八木教授は、出席者同士を5、6人のグループに分け、問題意識について語り合う対話を指導。続いてコンビニエンスストアチェーンで、店舗と本部が企業内で実現したいことを対話によって共有した結果、社員の「働くことに誇りを感じる指数」が約140%上った事例などを紹介した。

八木教授は「対話には互いの価値を探索する『内省』が必要。肩書きを外した深い対話を通じ組織が変化していく」と組織運営の円滑化をアドバイスしていた。(花城護)